

平成 28 年度 佐波川河川整備アドバイザー会議 議事要旨

日 時 平成 29 年 2 月 28 日（火） 15 時 50 分～17 時 00 分

場 所 右田福祉センター

出席者：赤松 良久 委員 河川工学
朝位 孝二 委員 河川工学
有吉 宏樹 委員 経済
榊原 弘之 委員 防災
関根 雅彦 委員 水質
竹下 直彦 委員 魚類
深田 三夫 委員 水利
森江 堯子 委員 自然環境

委員からの主な意見

委 員 : 社会情勢が余り変化していないということであるが、ここ数十年の間に、農地の荒廃、山林の荒廃が進んだのは明らかな事実だと思う。それに伴い、佐波川の流出量の変化は見られたのかどうか。

事務局 : この度の整備計画点検については、3 年前に策定された佐波川河川整備計画以降の社会情勢等を踏まえ、整備計画の変更の必要性があるかご意見を伺う場と考えている。3 年前からの変化という観点で言えば、流域に大きな変化がないということもあり、流出量についても変化がないと考えている。

委 員 : 近年耕作放棄地が増えていると思うが、農業面から何か要望は出ていないか。工業用水についての今後の見通しをどのように見ているのか。基本的には人口が増えておらず、将来的に渇水が発生したとしても、利水の減量が可能となり以前よりやりやすくなるのではないか。

事務局 : 農業面から具体的な要望は伺っていない。工業用水については、水利権量に対して現在の適正な許可量としており、取水量の減量は難しいと考えている。

委員：整備計画の中に「川の流れが生み出す良好な環境及び景観を次世代に引き継ぐ」ということが書いてあるところから、水質のデータを見ると、BOD が下流までほぼ1以下に保てている状況である。将来にわたって良好な環境を引き継ぎたいのなら、類型指定 AA を目指すことを考えてもいいのではないか。

事務局：類型指定 AA は、今後のデータを見ながら山口県と相談していきたい。

委員：水辺の空間利用で子供たちに水に親んでもらうという計画もたくさん盛り込まれているが、特にこの川は、見た目はきれいだが、農業用水、山林が多くて野鳥も多く、微生物学的な数値も公表することで、安心・安全の河川水になるのではないかと思う。

事務局：大腸菌群数など微生物学的な数値についても観測し公表を行っている。

委員：計画（案）どおり、見直す必要はないと思う。この3年で一番変わったのは、水防災意識社会の再構築で、この3年で大きく変わった情勢だと思う。ここに関して、引き続き防災対策の充実を図るとあるが、ハード対策は、計画どおりに進めていくのはいいが、ソフト対策は新しい取り組みをやっていく必要があると思う。「佐波川水系大規模氾濫に関する減災対策協議会」で何か新しい取り組みが決まったのであれば、ご照会いただきたい。

事務局：「佐波川水系大規模氾濫に関する減災対策協議会」で取組方針をとりまとめるにあたり、一番の観点として、施設の能力を上回る洪水は必ず起こるということ为前提にソフト対策のさらなる充実を図ることとしており、エリアメールを利用した洪水予報のプッシュ型配信や CCTV を活用したわかりやすい情報発信などの流域住民への情報提供の改善、関係機関と連携したタイムラインの更新や要配慮者利用施設への避難確保計画の作成支援など情報伝達や避難等に関する取組を今度5年間の取組方針としてまとめている。